

第5回中心市街地活性化基本計画策定委員会（議事録）

日時 平成20年3月29日（土）

午前9時30分～午前11時25分

場所 一宮スポーツ文化センター2階第3会議室

1 開会（委員長挨拶）

委員長

前回、かなり積極的なご意見を頂きまして、追加事業とか評価の事、ご議論いただきました。今日は、それをつめたものを出して頂いているようでございますので、是非、前向きの方で、中心街が活性化する議論を頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

2 報告事項

事務局から「中心市街地活性化の基本方針について（P45、46）」の説明

委員長

前回、尾張の歴史と文化とか、真清田神社を中心とする文化のことのご意見が複数の方からありまして、今説明がありましたような修正をして頂きました、という事です。これは宜しいでしょうか。私は「尾張の歴史と文化」と「尾張」を付け加えた方がいいかなと思ったりしたのですが。つまり、尾張の歴史と文化と言えるのは、やっぱり尾張一宮の神社がある所だから言えると、他のところはちょっと言い難いかなと。でも歴史と文化の薫るというのはどこでも言えるのではないかと、それから繊維業も尾州ということで売り出している。まあ個人的な意見ですので、参考にして下さい。

特徴が皆さんの意見ではっきりしてきたかなというふうに思います。今の事につきまして、何かご意見ございますか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

3 議事

（1）基本計画追加事業（案）について（P81、89）

事務局から説明

委員長

今、事務局からの説明がありましたことについて意見いただきたいと思いますが、どうでしょうか。

愛知県のガイドラインというのがあるという事で、準工業地域の立地については（規制する）それでも1万㎡超ですけども。検討するという文章になっています。真清田神社、歴史、文化については、質問がありましたところの項目について入れて頂いております。宜しいでしょうか。ありがとうございます。

（2）中心市街地活性化の目標（評価指標の目標値）について（P53～63）

事務局から説明

委員長

基本目標に対する目標設定、評価指標が3つ、副指標とともに、説明頂きました。これについては、ひ

とつずつご議論して頂いた方がいいと思いますので、まず最初に全般的なご質問があれば？

委員

前もって頂いた資料で、ちょっと気になったことが、55 ページですが、こういう表をまとめる時にどういう数字をもって来るかが難しいと思うのですよ。例えば図書館の 482,455 人というのが、下の方に書いてあります全部の図書館の合計なのですね。それをもってきて、開館時間が 2,215 時間から（1 日あたり）7.8 時間から 12 時間に増えますので、延べ時間が増えて、この 482,455 人で、時間あたり 218 人で、時間数が増えますから 2,616 人になるっていう。この 482,455 人というのを、中央図書館にまともに当てはめてもいいのかっていう疑問を持ちました。それと 56 ページに移りますと、上の方に 1 店舗あたり 40 人で 300 日営業して、5 箇所増えますから 60,000 人という数字ですが、その一行下の 60,000 人を 300 日で割るっていう意味があるのかな。この 40 人という人数で 5 箇所増えるわけですから 40×5 の 200 人でストレートに持ってきていい数字ですね。そう見ると、その次の方のチャレンジマートについても、この 40 人がいいかという問題はありますけど、 40×15 で 600 人という数字を出した方が、300 で割るっていう意味が全然ないと僕は思います。全体的な話としてそう思いましたので。

委員長

全体的に数字の根拠ですね。では、それを頭に置きながら進めさせてよろしいですか。他に全体的なものについて何かありますでしょうか。もしなければ、3 つに分けて議論していただけたらと思いますので。最初の 53 ページから、中心市街地の歩行者通行量という、まず「にぎわいの創出」にかかる基本目標 についてご議論いただく。57 ページまでですね。いま質問がありました 2 つ、55 ページの図書館の利用者について、5 館を集計して、中央図書館（仮称）1 本の数値に持ってくることの適否といいたいでしょうか、それからあとは、コミュニティ活性化事業、チャレンジマート事業等についての計算の仕方、その 2 点ですが、まず事務局の方でお答えがありましたらお願いしたいと思います。

事務局

まず図書館の方ですが、貸出者数を採用させて頂いたのは、一番上の蔵書点数、それから延べ床面積の方は、現状の図書館の 5 館分を足したものと、それから今後建設予定の中央図書館の点数、面積と非常に似通っていたために、この数値を採用しました。ほかに算出する根拠としてうまく当てはまるものがないというのが正直なところです。今後、駅前という立地の利便性からも来館者、貸し出し者が増えるであろうという見込みから算出しております。もう一点の数値の計算、56 ページの方ですが、一応、年間でどれくらい来るだろうという数字を出しておいて、営業日数で割ったというものなので、ダイレクトに出しても変わらない事だと思いますので、ここは訂正させて頂いても全然問題ないと思います。

委員長

まず、ひとつずつ行きましょうか。新しい図書館が出来ることで、どれ位の人数が来るだろうかという事を算定したいという課題ですね。その出し方として、床面積が類似している規模の、対面積でやればこの図書館をとってもいいわけですけど、たまたま（現在の 4 施設の面積と）一緒くらいなので、それをしたら年間 480,000 人来るといのが出てきた訳ですね。時間数で割ると、1 時間当たり 218 人来てる。それが面積規模は一緒なので、218 人は時間当たりなので、開館時間を掛けて 2,616 人にした。こういう計算をしましたという事ですがいかがでしょうか。否定するだけではなくて、何か指標を出さなくてはいけないので、こうしたらどうかというものも頂けると、事務局としては有難いと思います。

委員

あまりご期待に応える答えになりそうにないんですけども。

「にぎわいの創出じゃなくて、にぎわいの搾取なんじゃないの」と私は思ってます。私はにぎわいとは、商店街に人がいっぱいいるような状況だと思ってるんで、図書館という空間というのは、知を学び共有し合う場であって、そういう場ではないと思うんです。それ以上に、ここで出している計算根拠って、穿って見てるのかも知れないけれど、他の過去の各図書館の人数がこれだけでした、この人達がここに来ますねということは、店と違って図書館に行く人は一日2箇所を回らないから、要は他の図書館の人を奪ってここへ連れて来るという事にならないかな、という疑問がとてもあります。この根拠の出し方って、そういう事を裏で意味しているような気がしてとても怖い気がしています。もしそうだとするならば、図書館へ行く人がこれが出来たがために、毎日2箇所行く人になるという状況ってというのが創出だと思うんだけど、私はとても信じられない。これはむしろ、中央集権的な答えが出ているんじゃないのかなと、だからこれを指標に持ち出すのって有なのかしらっていう所から、私は申し上げたいと思います。

先程、委員がおっしゃった、チャレンジマートについては、あくまで遊びかも知れませんが、その遊びにしても生まれてくる定数的な効果で、どこまでいくかというのは目標値で、頑張っていこうとしている数値なので、遊びにしる根拠がほしい。今迄はこうだけれども、今回はこうするので、ここまではいけるという力強い根拠がほしいと思います。一点目はとても嫌な問題だというような気がするんですが。

委員長

商店街の交通量だけでなく、この計画そのものが180haの中心市街地の中での人出を考えているので、その中にできる施設について、プラス、マイナスがあるわけで、中心市街地としているところに人が集まって来る要素は何かと、単純に考えているんじゃないかと思います。他の方法は何か検討されましたでしょうかね。つまり、ここでやや誤解を生じているのは、4つの図書館の合計を用いたから。今の豊島図書館（のデータ）を出しても一緒ですね。例えば、現在の一宮の元々の市街地の、図書館で一日あたりどれだけ来てるかと。これが、面積が広がるので、面積乗数を掛けてやれば、同じようなことが計算できると思うんですね。どのような試行錯誤をして、これが一番いいということになったんでしょうか。

事務局

豊島図書館との単純なる比較というのは、検討はしてございません。単純に面積的な点、蔵書数も、今回新たに出来る中央図書館との差が大きくありますので。

委員長

でも、商店街なんかの大型店で、単位面積あたりの売場、売場面積の床面積でどれだけ売上があるか、例えば、店舗が大きくなればこれだけ大きくなるとやるじゃないですか。単位面積としましょうかね、そしたらニーズが出ますでしょ。単位面積あたり何人と、それを今度面積増える訳だから、その5倍になったら5倍したという計算したとするとね、周辺の人のが消えてしまうわけですね。「今こうやっているから周辺の来てる人も全部こっちに連れてくるのか」という話になってしまったので、たぶん本意じゃないと思うんですよ。ですから、それでもそういう計算がありとすると、そっちを採用する。つまり、いずれの計算方法でも人数は増えるわけですね、面積が増えるわけですから、面積効果は出ますので。皆さんどう思われますか。そっちの方が、誤解が少なければどうでしょうか。このままでいいということであればこのままで結構ですが。

副委員長

そういう計算の仕方もあると思うんですが、要するに非常に交通の便利な所に図書館ができるということで、たぶん全国でもあまり例がない。ですから数字をはじくこと自体が非常に難しいと思いますし、特に学生の人なんかは、すごく便利なところがあるので、いままでわざわざ図書館へ行かなきゃいけないという状況だったものが、通勤や通学の帰りにちょっと寄ってみたりすることや、隣に大学が出来るということがあると、もっとその利用度が高まるというような事もありますし。駅に図書館がある街なんていうのは、ちょっと私も想像できないと思うんですよね。ですから、数字的なことが、もっとすごく利用度が上がるんじゃないかなってというような感じがするんですよね。

委員長

これ2,616人より利用度が上がるんだったら結構な事で、これはそのままでいいと思うんですが。

事務局

昨日、スタッフが高岡市に行ってきたのですが、そこも駅の前に中央図書館が入っておりまして、ざっと90万人程度。岐阜にも高架下に（図書館が）入っておりまして、確か2000㎡か1000㎡ぐらいの小さな図書館ですが、だいたい64万人位。ですから、まだ推計してないので何とも言えませんが、100万人は間違いなく越えるだろうというような大きな目標を持っております。いまの議論は、勝手に答えていいか判りませんが、これでは委員も言われた通り誤解をされると思います。4つの図書館をここに持ってくるという話、人数を持ってくるという話でなくて、あくまでも規模算定の時に、たまたま図書館の規模が同じだからその程度の集客があるだろうという、それが書いてないので、非常に誤解も受けやすいなど。もう一つ、委員長も言われたように、基本的には今の豊島図書館よりも立地がよくなっていう条件ですので、豊島図書館と床面積掛けて、ただ単に倍率を掛けた数字よりもより多くの人数がくると私は思っています。その推計については、まだ議論していませんので事務局側で一度検討したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

副委員長

全国でどのくらいあるのか？わかりますか。

事務局

そんなにありません。全国で多分数箇所だと思っています。

委員

町田市が駅の近くにありますがね。あと、有名なのは浦安が駅の近くにありますがね。

委員長

類似の規模で、駅前だから増える純数効果を掛けてもいいですけどね。でも、ベーシックなところを出さなければいけないので、だいたい同じくらいの規模の図書館を調べて、それをベースにして、駅前立地という事で何倍にするかというのを入れるという手もあると思いますけど。私もこれを読んでいて、図書館を統合して尾西の人が文句言わないのかなと、ちょっと思ったので。委員長が発言すると問題だなと思っていましたので、黙っていましたが、やっぱり誤解招きそうですね。

今の計算で改めていただいてもよろしいでしょうか。そうすると人数が若干変わってきますけど、基本的には増える方向、0が今の3,000人か4,000人か。評価がある訳ですから、あんまり大きく見るのもどうかと思いますけど。できるだけ根拠をつけて誤解なく出していただく。そういう事でよろしいですね。

委員

やっぱり、他の図書館の事例で数字を持ってくべきだと思うのですが。ただ、延べ床面積みたいな話でいうと、最近の図書館は、大きい蔵書機能は郊外に置いて、中央は電子化して、宅配で運送するというケースの方が段々増えてきている。単純に床面積だけで比較するとものすごい数字になってしまうかもしれないので、その辺だけちょっと判断して新しい図書館の方向というのをみていただければと思います。

委員長

ありがとうございました。それでは次の、それぞれコミュニティ活性化事業、チャレンジマート事業、中心商業地商業施設設置促進支援事業、生活交通バス運行事業ということで、これを集計しまして57ページですね。中心市街地の通行量予測の所にずっと繋げていく訳ですね、は議論しましたので、以降ですね、
、
、
について、先程お話がありました、一日40人だから5箇所掛けるように最初から単純にやればいいのかという質問。これは下の方削除するんですか。

事務局

削除します。

委員長

それで、簡単に出す。の200人とかそういう数字は、40人/日×5箇所=200人というふうに出すという事ですね。他にどうでしょうか。

副委員長

ひとつだけ。もうちょっと前に戻るが16,800人ということで新しい数字になったんですが、これは中心市街地全体の数字であって、もうちょっと区分けをして、結果終わってみたら駅前は、物凄い交通量に増えたけども、本町通りは非常に少なかったとかですね、それでは、にぎわいの創出にはならないので、もう少し数字を沢山出して、結果トータル16,800という数字を出して頂けると、目標としては我々も納得できるかなという気がする。このまま行くと、どうも駅前に集中しそうな気がしてしょうがないですけども。

委員長

24ページ下の表が何だか見難い。私は人数と年度の表にして、地点は中に入り込むというのにすると、同じ地点の歩行者量がひとつのグラフで出てきますね。今の副委員長の言われた、その先がどうなるかというのは、実はそのグラフが上に上がるかどうかという事で出てくるんですね。その時に、ここの9地点を全部予想してしまっているのだろうか。プロジェクトをやってない所を予想しちゃっても、しょうがないような気もするし。やはり180haのパイの中に、できるだけ大勢の人を呼び込んで頂いて、それを、それぞれの所が引っ張って頂くというふうに考えて作ってあると思うんですよ。

委員

地点 8 と 9 ばかりが増えてはね。

委員長

だから本町の方は、今から議論していただく方で頑張ってください。色んな事業はできないかという事ですが、この前の議論の中であがってきていないのに、この数字を上を伸ばすというのはもっと危ない事なので、24 ページの所をもう少し改良できるのならしていただいて。主要点ですね、全部じゃなくて、例えば本町はどうかとか少し入れるというのもありかなと。その事に関連して、チャレンジマートなんかの所は、店舗がどこに張り付くかと、本町だけに限定してないとすると、どこが増えるかとは言いにくいですね。ですから、今の意見もあるんですが、その議論は事務局に答えてもらいましょう。

事務局

委員長のご意見のとおり、すべての地点の推計はできないと思っております。ただ、第 6 次総合計画というのが議会等でも議決いただきまして、来年度から施行という事になる訳ですけども、その中に本町通りと銀座通りの 2 路線についての、将来の目標がございます。今、委員長も言われたように、まず全体の区域からどう来てもらうかという話なので、その上で主な道路である、例えば、本町通りであるとか銀座通りのあたりの 1 地点ずつぐらいは、追加の資料で入れる位がいいのかなと、私は思っております。それを事務局で検討させていただきますので、よろしくお願いします。

委員長

ありがとうございます。ではそういうことでお願いしたいと思います。今の個別の事業についてご意見はどうでしょうか。今の所、先程しました計算の所を、同じ計算になっているような所を削除すれば、問題はヒアリングの 40 人と、これは 35 人にしても 20 人にしてもいいわけですけど、あまり大きくすると、ちょっとどうかなというのもあるので。この 40 人の掴み方ですけど、どんな掴み方で頂いているのでしょうか。皆さん商売されている方は、どうでしょうか。ひとつの店舗が大体一日 30 人位で客単価を掛けていて、それで行くと成り立つとこと、成り立たないとことあって、成り立たない所はボランティア的なお店かなという感じで捉えていくと 40 人ぐらいが程々かと、あまり無理がないかという見方をして頂いたらどうかと思いますけど、どうでしょうか。

委員

この数値に対しては、その時々で違うと思うんです。それよりも、私はここに掲げてあります、コミュニティ活性化事業、チャレンジマート事業、中心市街地商業施設設置促進支援事業、これ私は初めて聞く名前なんですが、これ全て行政側としては、こういう事をやりますよ言うだけであって、実はこの事業を推進するのは誰だって言うと、多分、商店街がやればいいとなると思います。商店街は今、これが中々できないので、こういう良い事業の補助金を頂いてやれる形にはなってるんですけど、誰がやるんだと言ったら、多分また（商店街がやれということになる）もう一つ言わせてもらおうと、の一宮駅前ビルは行政がやりますよと、の生活交通バス運行に対しては行政がやりますよと。もう歴然としてなっている。せっかくコミュニティの、の補助金事業だと思いたすが。では、誰がやるんだという話になると、すぐ商店街だと。商店街は、確かに自分達がそこで商売をしていますから、空き地や空き店舗があったら何とか埋めたいなと思いたすが。それを何とかする、誰がやるんだという仕掛けのところを、もう少し行政なり会議所なりが動かなきゃならない。その仕掛けを作る人が、どうしても、行政だとか会議所から出たいて推進して頂きたいです。この事業、の事業をやるには、誰がどうやって動く

かというのが、一番難しい問題であって、商店街は残念ながら、それができないから、今、悩んでおる訳でございますので、そういった人件的なところで推進されるような方が、中心市街地の活性化のために動いていただける方が何とか出てきていただけないかと、これは切なお願いでございます。

委員長

では、お願いで留めて宜しいですか。それで、あと後ろの方でご議論があればお願いします。

委員

お願いというよりも、これだけの数値を増やすには、これを、例えば、を成功させなければ、この数値になるかならないかは判らないわけですから。今の商店街の現状のままでいったらチャレンジマーケット、次やりますか？1年目は成功しました、2年目やりますか？3年目やりますか？と言った時に、やり手がないですよ。結局書いて頂いただけだったら数値は増えませんよ。その増える施策は、どうしたらいいかっていうのを考えていって頂きたい。商店街にこれだけ人を与えるからこの人に動いてもらうとか。商店街で動けてるのは、何度も言ってますけど、もう無理なんだっていうことを、行政さんに今訴えておるわけでございますので、今、私はお願いって言ったけど、もしここに書かれるんなら、チャレンジマーケット事業は行政も参画しますとか、そういう事を書いて頂きたい。よろしくお願いします。

委員長

そういう事でございますので、宜しくお願いいたします。

いずれにしても、この計画を作って進めるという事になりますと、数値を入れなきゃいけないんですが、こんなのを書いたって、実現しないのであればもっと少なくしろということであれば、例えば20人とか、15店舗を10店舗とかにさせて頂いて、それで実際は商店街の皆で努力して、それが15になった40になったという方が安全だという意見があれば、そう変えさせて頂いたらどうかと、私は思います。

どうでしょう。そういう意味じゃないかも知れませんが、この計画はどうですか。

委員

今、委員長が言われるのは、そういう意味じゃないです。私はこういう事業としてここに書かれるんだったら、現実にできるようなやり方で、これを推進するのは誰だという事を書いて頂きたいぐらいの事を言いたいんであって、私ども、この平均3店舗で、5年で15店舗埋まることは私らの希望でございますので、10店舗にしてもらうのは困ります。

委員

ここはあくまでも計算上の手段として、こういったものをやってはどうかという、そういった考え方でですね。実際は、後ろの方の個別事業の所で、こういった事をやりましょうという事が書いてありまして、先ほどのようなお話があるのであれば、その後ろの方を直していくという事だろうと思います。

ここは、目標としての数値を出すために、こういった指標をとるかというのが眼目だと思っております。

委員長

ここの15を10にしてはちょっと困るということで、私は、全然判らないので、今の話を伺っていると、これは高い目標かもしれないと思うのですが、事務局としてはこれで、皆さんよければこれで行って、むしろ、今仰ったように、事業の内容の所とか実施の体制の所で、少し頑張ってもらいたいという書きぶりにさせ

て頂くという事で、進めさせてよろしいでしょうか。

はい、それでは、そういうふうにさせていただきます。他にどうでしょうか、ここの点に付きまして。

私は、ちょっと個人的に、 の生活交通バス運行事業というのは、これは街に来る人ですね。この来る人がお店に入ったりすると、 、 、 と重複してカウントっていう事はないだろうかと思ったんですけど、それはどういうふうに考えたら宜しいでしょうか。すみません、突然の質問かもしれませんが。

事務局

重複という考え方でいきますと、全て、他にもチャレンジマートとも…。明らかに数字的に現れるものを、何とか指標で使いたいという事で考えたわけです。これもまだ、今後、国の方に説明する時に、これが果たして通るのかという懸念もございませうけども。

委員長

重複率を最初から作っておいて掛けますか。つまり、もし重複率があるとすると、バスで来た人が、この半分はチャレンジマートとか他の事業で吸収してしまうと。他の既存の店に行くのは、これだけと割合を掛けて。それで、何人見込んでいるかな。90人ですからそんなに多くないですけど、90人のうちの30人は増えますよという説明をしたとすると、57ページの総計が下がる訳なんですけどね。その時のバランスで、14,300人が16,800人になるということ、16,000人位になるかもしれないけど、その方がいいのか、今の16,800人がいいのかっていう。この出てきた数字を今度並べる時にそういうふうに見る。

今、これでベーシックはいいとして、それで今の重複の問題は、多分申請する時にヒアリングアウトしたら、それはどうですかと質問が来る時に、一応こういうふうを考えてきましたという、納得のある何かをしておく、この数値がちょっと下がるかもしれないけど、下がったからといって、一宮の申請を却下するという事はないと私は思うので、その組み立てを論理的にしておいたらいいかなと思います。他にございませうでしょうか。もしなければ、ここの所は基本目標 の修正を少しして、重複の所も、考えをこの通りでいく場合も、説明書きを入れて頂いたらどうかなと思います。

基本目標の(2)、まちなか居住の方は、まず満足度というのをに入れて、何年度というのが表に入っているといいと思いますが、副指標が59ページからで、60ページに中心市街地の居住人口の推計というのが書いてあり、これが実態のトレンドでこうなっていますよと。ですから、今後もそういう状況だという前提にしているわけですが、人口減の日本の中で、なぜ増えるのかというのも、愛知県の場合、名古屋の場合はちょっと違う条件が入ってますよという事を触れながら、一宮の場合は、そういう人口が駅前の人口増の受け皿になっていると。まちなかを魅力的にすれば、名古屋の通勤客も含めて、居住が進む。あるいは、郊外から都心に移り住んで頂く方も居るかも知れないという事で、いかがでしょうか。

フォローアップの考え方はチェックしますよという事です。居住環境を一層良くするなんて事も、少し入れておいた方がいいかもしれませうね。

それから60ページ、基本目標の(3)、商業の活性化ですね。これの指標の出し方については、年間基本小売販売額があって、それで数値目標の考え方は、どうして増えるかと言っているのは、人口の全市平均の一人当たりの消費係数と中心市街地の居住者の増加によるというのが62ページかな。62ページで計算すると、それが、現状のまま中心市街地に来てくれるとすると、これだけ増えますと、こういう事です。この点についてはどうでしょうか。

委員

随分数字を上げるのに苦労なさったんだろうなと思っておりますが、私ちょっと見直してこなかったん

議事録（要約）

ですけれども、(1)の方の指標の所って、前って夜間人口っていうのも、目標数値にあがってませんでしたか。何で消えたのかなというのも含めて、(1)の方の指標では、将来推計を下がって行くものだというのを、トレンドの中で捉えて、それに対して、これをやるとこんなに増えるよと、ある意味これはとても明確だと思えます。年間小売販売の方は、表現としてよく分からないのは、平成14年から平成16年に実際には小売額は増えている。このトレンドだけ見れば普通でも増える、というのがあります。もう一つは、人口が1.3%増えるということならば、それだけで売上は自然増して当たり前という議論があって、仮に取組みを行わなかった場合の推計が537万という事で落ちているんだけど、これはどういう流れなのかよくわからない。その前の所は、非常に明確に図表化されて、57ページの所に通行量増加予測という事で非常に明確に判り易く出ているのですが、こちらの売上高になると突然そういうのが書いてないのは、苦勞なさったんだろうなと思えますが、説得力に乏しいように思えますがいかがでしょうか。

委員長

苦勞している所なんですよ、仰るように。どうでしょうか、説明して下さい。

事務局（SRC）

まず、平成14年から平成16年に関する数字なんですが、平成18年の商業統計の数字が、来年度の4月以降に国の方から発表されるものですから、そのトレンドを踏まえて、再度目標値の方は、設定させて頂きたい。このまま数字だけみて右肩上がりですよと言うには、2時点では算出根拠が非常に乏しいと思いますので、それを加味させて頂いて、もう一度、推計させて頂きたいというのが大前提にありまして、今回は、年間小売販売額の状況がこういうふうですよというものを、一旦出させて頂いております。出し方としては、人口が減りますので、最終的には、その中で消費される数字が減っていくのではないかという、予測の基に算出をしておりますので、根拠としてはちょっと弱い出し方ではあります。

それから、前の(1)と(2)の目標と比べて、非常に苦慮した部分があり、弱々しい部分ではあるのですが、平成18年の数字が出た段階で、トレンド等を見て、あとは人口の推移、それから客単価というか、消費一店舗あたり、一人当たりの消費額みたいなものも、ある程度見えてくるのかなという気がしますので、その中で人口と年間小売販売額のトレンドを見て、直させて頂ければと思いますので、宜しくお願いします。

委員

先程の、中心市街地の販売額の件なんですけども、15ページで中心市街地、中心部、広域市街区、旧連区に基づく定義がございますよね。後ろの方、61ページですと、1)のウ)の所で、中心市街地の年間小売販売額というような表現があるんですけども、中心市街地の年間小売販売額というのは、集計が可能なんですか。

事務局

連区でしか（集計できません）これは数値的には、連区制というのを取っておりますので。

委員

そうすると誤解を与える可能性がありますね。中心市街地の年間販売額については、例えば中心地のところ、たぶん3連区だと思っておりますが、宮西、神山、大志、こういったところの連区の数字をもってこれに変えとか、そうすると、実は、そういった所に大型店舗があって、数字が実は平成14年から平成16年まで伸びてくることを、なるほどなと思う人も出てくるんじゃないかと思えますね。そういったことを踏

まえて、数字をもう一回見るという事だろうと思います。

委員長

ありがとうございました。平成 16 年増える理由は、そんな所にもあるのかという事なので、やはり資料、データの扱い方ですね。それから仮に取組みを行った場合の推計っていうのを、人口が増えることは取組みの中に入っているわけだから、今の質問だと、何もしなくても人口は、実はマンションができてる訳で増えたとすると、仮に取組みを行った場合というのは、人口は横這いと見ているのか、減少はないですね。トレンドでずっと増えてきてるわけだから。すると、ここの説明が足りないじゃないかな。それで 62 ページの、中心市街地の人口が、米印で平成 24 年には 15,200 人と 16,700 人と 2 つ数字が出てるので、そのトレンドをどういうふうに見てるのかなっていうのが、ちょっと判りにくいと思うんですが。簡単に言えば、16,700 人と 15,200 人を分けてあるのはどうしてですか。ここは夜間人口ですね。

事務局（SRC）

62 ページの表の事だと思うんですけども、16,700 人というのは、単純に根拠としては民間事業による、ディベロッパーによるマンション建設の平成 20 年度からの数字を算出の基に、数字を加味した算出をしたのが 16,700 と、下の米印の 15,200 というのはですね、予定は予定ですので、それがなかった場合という、現状の減少していくままの推移の場合であると、この 15,200 位になるであろうという推察の元に、おこなった人口推計、要は右肩下がりのままというか、若干、平成 18 年、平成 19 年で増えるものの、その後、ほぼ横這いになっていくだろうという推計の基の数字になっております。

委員長

お分りでしょうか、皆さん。分からないなら、分からないとって頂いていいですよ。私は、よく分かんなかったんですけど。つまり、60 ページの居住人口の推計というのは表がありますね。で、年度が平成 15 年まではずっと下がって、平成 16 年位からずっと上がってる。それで、数字はどこを使っているんですか、という事なんです。16,700 というのも 15,200 も両方とも増えているわけだから、どのカーブを使っているのかなと。今の説明では私はよく分からなかったんですが。要するに、人口増をするのに、平成 20 年からの人口増加の割合を掛けたものが 16,700 で、15,200 はどこからどこまでの数値を使っているのか、先程、人口が減ってると言っているんだけど、ここは何もしない場合も増えてるじゃないかと。

委員

事業をおこすと、16,700 になるんだけど、今のまま、ほって置けば自然増加っていう。

委員長

ただ、私の場合、自分で計算しようとする、どの数値を使うかなっていうので見るので、体裁的には分かるんですけどね。体裁的にはどの数値を使ったんですかと。皆さん分かりましたか。

委員

わかりませんよ、こんなの。

委員長

それでは、苦労するところですね。例えば人口が、何もしない場合っていうのも、これまでの何年までの

中心市街地の人口トレンドを使った場合、とするとか。きちっと定量的に計算できる説明を入れて、平成24年度を計算しましたと。そうすると、増える方向で人口増えてるわけだから、何年以降の人口増加の平均割合を使ってやったら16,700人増えましたと。その人達が増えるので、中心市街地の購買がそのままその人達が買ってくれるとすると、或は、この人たちの消費額の何割かが中心市街地に落ちるので、この中心部の売上高がこれだけ上がりますと、こういう計算をしましたとあれば、何となく分かるんですけど。私が間違ってるかもしれませんが。

例えば、商業者の立場だから、人口が増えたから、みんな買物に来てくれるとは、限らないじゃないかと、こう仰ると思うんですけど、それも計算上、増えた人口の何割かが地元で落ちてくれる、だから中心部の売り上げがこれだけ上がりますという計算をさせて下さいと、効果としてですよ。後は、事業で人が何割来るというのがチャレンジマートの方に入っているのかな。チャレンジマートとか、そういう事業では、どれだけ売り上げが増えるのかというのが副指標に入れてあるんですね。それはあまり大きくないという事ですね、数値としてね。だから副指標の方であげさせて頂いている。この辺が苦しいところなんです。だから委員が、先程から仰ったことがよく分かるんです。効果として少ないんだけど、それすら危ういじゃないかと。それでもやって行こうと、駅前にも人が来てくれたら、少しでも、来ないより来た人を商店街の方に呼び込んでいくという事をやるしかないんじゃないでしょうかという事だと思うんです。どうでしょうか。この数値、今の所を修正して、判り易くして頂いて宜しいでしょうか。指標についてはここで修正して了解して頂くという事で。

他にお気付きの点、今日できるだけお伺いして頂いた方が、後々いいと思いますので、よろしいですかね。さっき、事業で何か書き込まなきゃいけないって、委員さんが言ってたんですけど、具体的に書き込まなくていいんですか。事業の中に。もうちょっとしっかりチャレンジマートのところに、或は、推進規定のところにもっと、行政と一体となって事業を進めることを検討するとか。

委員

委員長が、私にふられたわけですけど。今回の中心市街地活性化の検討につきました、その前の時の検討が、50いくつかの事業を羅列しただけじゃないかという事と、全く同じような事になってしまわないかなと、僕は危惧している訳です。で、現実問題として、中心商店街がこんなに疲弊しているのに、行政としてやれることはやれるという事かもしれませんが、実際、何度も言いますが空き地があったり、そこが中心街に一番大切なところであったりするものが、商店街の力では何ともならない、だからこそ、誰かが手を打ってほしいと言って、切に願ってるわけです。今、委員長が言われた、お願いをするだけでは現実にならないという事ですので、本当にここに書いて頂くならば、私は何度も言いますが、これを推進する役割を果たす人間、人を僕は作ってほしいから、ここに作る人、そういう事をやる人を作る事を、ここに書いて頂きたいぐらいです。でないと、いつまでたっても、各事業の、要するに基本計画であって、実現しないことばかりになってしまう。確かに駅ビルはできるかも知れませんが、その他の事が...例えば道路を直す。道路が悪くなったら当たり前の事です。それと同じように中心市街地にどんどん空き地ができたなら、どうするんだと言った時に、じゃ誰がやるんだという話を、僕はここの中心市街地活性化の問題の中では明確に、誰がやるんだと明確にしてほしいんです。それは実は、地権者であるかも知れませんが、だから、それを動かす手筈を整えるのは誰ですかというのを、今、言いたい事です。だから、僕は以前、前の副市長さんに、「中心市街地活性化のためには、市の方から動く人を出して下さい」と言った時に、「それはできません」と言われたことがありますけど、出して頂かないとできないんです。だから、ここに謳ってほしいんです。以上です。

委員長

96 ページの所に、 に市民との連携、ここは少なくとも、市民だけじゃなくて、商業者の関係者のお名前もタイトルに出たほうがいいように思います。そういう人づくりについては、どこに書き込むんですかね。人づくりを派遣するなんて事は、今、誰も決定できないでしょうから。人づくりが重要であるとか、少なくとも、そういう認識を計画の時に持つとする。

市民との連携の中に、やっぱり「まちづくりのリーダーを育成する」というのを考えるという事ですかね、最低ね。じゃあ、96 ページにその辺も考えて頂いて。具体的にこうっていう事は、今の段階では約束はできないでしょうけど、前向きに。これは民間が出してもいいんですけど。ですから、本当は民間の方がいいっていうのもあるわけで、あまり行政に頼りすぎてもいけないので、やはり広く人材を求めていくというのもあるかも知れない。人づくりというのを、やはりちょっとどこかに入れて頂きたいですね。

他にありますか。他になければ、今日はこの追加事業と、評価指標について議論頂いて、また活発なご意見を頂きましたので、そこを修正させて頂く事になると思います。それでは、その他、今後のスケジュールについてお願いします。

（3）その他

・今後のスケジュールについて

事務局

これで平成 19 年度の策定委員会 5 回開催しました。一応の素案、今日の議論を踏まえた点も修正していきたいと思っております。また次回、皆さんにご提示が可能かという事も内部で調整しまして、平成 20 年度も引き続き各委員さんに、策定委員会としてお願いをしたいというふうに考えております。

今後のスケジュールとしましては、会議所さんと協力し合いながら、まず法定協議会が立ち上がるような、準備会の方も会議所さんの方で研究検討がなされているという事を聞いております。そこに市も参画しまして一緒になって準備会等が立ち上がる方向で進めていきたいと思っておりますので、宜しくお願ひしたいと思います。

委員長

ありがとうございました。これは、今話がありましたけど、その事について何かご意見を頂きたいと思ひます。

委員

今迄、市が主導で任意の協議会をやっていたんですが、今後の協議会は商工会議所が主催でやるという意味ですか。

事務局

今後というか、今迄、この基本計画を策定するのは市の責務ということで、各委員に集まって頂きまして、各種の事業提案等を受けまして、市の今後 5 年間の中心市街地の活性化に向けた基本的な方向付けということで、今日までご議論して頂きました。今後も、6 回目、新年度入ってから、このような議論もこの委員の方でお願いしたい。それと平行しながら、本来ですと、認定に向けまして、まちづくり会社と商工会議所さんがセットになりまして法定協議会というものが必要であります。会議所さんはごさいませんですけども、まちづくり会社という位置づけになるものが、まだございませぬ。それに向けて会議所さんと一緒に、法定協議会が立ち上がる前段階の準備会等、それぞれの各事業者だとか市民団体の方と、こちら

の今回ベースとなるものを見て頂いて、検討して頂くというような形になるかというふうに考えております。

委員長

ありがとうございました。どうでしょうか。

委員

そうすると、来年、市は策定委員会をやりつつ、商工会議所は法定協議会をやると、法定協議会の方は、指名する委員と誰でも参加可能なんでそっちが入ってくると、こちらは相変わらず諮問委員の形でやってくと。というふうに2つあるってことですか。

事務局

現在、まだ、その2つあるという段階まではいってございません。

ちょっとご説明させていただきますと、今、ご議論頂いて素案と書いてありますけども、これからも変更する可能性があるものです。皆さんから、色んな意見を聞きまして、これから商工会議所さんとか、立ち上げれば法定協議会の方々と、これについて議論させていただく。それから、当然ながら4月以降、事前相談という形で内閣府の方にも申し込まないといけない、整備局や経済局の方にも持って行って相談しなきゃいけない。こういうような手続きがございまして、皆さんから色んな意見を聞いて、ここまで、やっと素案って形までもってきましたので、もし、4月、5月で開催することが可能であれば、皆様の方に、今迄の検討状況、それから協議状況についてご報告させていただくと。場合によっては、その段階で意見をいただく事があるかも知れない、こういうふうに想定をしているわけでございます。

委員長

ありがとうございました。

各事業については、64 ページ以降あるので。一宮市が、行政がやるものは、この計画に従って、できるようになったものから、少しずつ実現をしていきたいと。議会のご理解を得ながら勧めていくと。それぞれ事業主体が書いてあるものは、それぞれ分担しながらやっていくことになる。もう一方で統括する組織が推進協議会っていうのが出てくると。その中に市役所の担当者が積極的に参加できれば、少し連絡は密になるかも知れないし、そうすると商工会議所の役割は非常に大きいですね。どうでしょうか。

副委員長

私は代表の立場でないので、あんまり、色んな事いっちゃうと、それは違うぞといわれると非常に困るんですが。やっぱり最後の所の中心市街地の協議会は、立ち上げないといけないと思っておりますし、会議所としても、市と一緒に協会の設立という事を、単独のものに、これをぶつけるという事は難しいと思いますので、何らかの形で商工会議所が関わりながら、この協会の設立という方向に向けて行かなければいけないのではないかなと思っております。

委員長

中心的に推進して頂くところが必要ですので。それが行政も当然ですけど、民間の団体が深く関わって頂けるといいなという事だと思います。そして、結成の組織になるので新しい組織、まちづくり会社というのは、新しい組織かも知れないし、あるいはそれぞれの事業者の方がそれに積極的に参画して頂くとい

う事になれば、中身としては進んでいくし、足りないものがあれば、フォローアップの方は、行政がやるんですね。情報は新しい組織ができたら、そっちとも情報をやりとりしながら、事業を進めていく事になるので、やはり、97ページ以降の辺が、商工会議所のリーダーシップに期待するところが大きいなと思いますので、宜しくお願い致します。他にどうでしょうか。よろしいですか。

事務局

平成 19 年度最後の 5 回目の策定委員会、皆さん、お忙しい中ご協力頂きましてありがとうございました。先程も、事務局の方から話がありましたように、この基本計画を作るのは市の責任であります。作って、皆さんから色々な意見を頂いて、織り込んだ事もあります。だからといって策定協議会で作ったものだからとは申しません、我々の責任であります。この中の事項、頂いた意見も含めて、実はまだ固まっていないもの、予算の裏付けがないもの、それから実施主体が不明確であるもの、こういったものがございます。

前回、平成 12 年に作った基本計画の反省というのは、そういったところが多くて、実施主体が明確でなかったり、予算の裏付けがなかったり、アイデア止まりであったりといったものが多くて、実際の実施率が 30 数パーセント、40 パーセント弱に留まったといったと、こういった反省もございます。我々はこれから国の方と相談していく段階、それから関係の方々との相談していく段階で、そういった実現可能性が低いものは落としていく、または落とされていく、そういうような状況になるだろうと思っております。確度の高いものを集めて、このまちの活性化ができればいいなと思っております。

一応これで、本年度の会合は区切りという事でございますが、また皆さんとはこれから新年度となつてから、色々ご相談させて頂いたり、ご協力願ったりする事があると思っております、是非よろしく宜しくお願い致します。どうもありがとうございました。

事務局

それでは、これをもちまして、第 5 回基本計画策定委員会を閉じさせていただきます。
ありがとうございました。

- 終了 -